

エルサルバドルでの初めての合気道

70歳を目前にシニア海外ボランティアとしてエルサルバドル警察学校に合気道の指導に赴任することになった。その前にもラオスで合気道を指導していたので、赴任には何の不安もなかったが、周りの人たちはエルサルバドルといっても誰もどこにあるかわからず、「そもそも警察学校のエネルギーの有り余っている若者を相手に70近い年寄りが大丈夫？」と道場一同に心配されながらの赴任となった。

警察学校はいくつもの課に分かれ私は実技の指導部に配属され、課の広報誌で、日本のJICAから派遣された合気道という武道のインストラクターだと似顔絵入りで心から歓迎するという心温まる紹介をされた。5人の武道教官がいて学生に警棒や拳銃、手錠の使い方などを指導していた。みんな大男で、柔道、空手、テコンドーの有段者、レスリングの選手と猛者ぞろいで小柄で高齢の指導者に戸惑いもあったと思うが、新しい武道の習得に熱心に稽古に励んでくれた。午前中は教官に合気道を指導し、午後は教官のクラスでの指導の補助や学生の指導にあたった。彼らは卒業後各地に配属されるが、時々、街で指導されたと声をかけられることもあった。学生たちは好奇心も強く、小男の私に大きな学生が押さえつけられると周りは大喜びしてにぎやかなけいこ風景となった。



警棒使用の訓練



気を付けの腕の姿勢が日本と異なるようだ



模擬ピストルで訓練



武道教官・学生・JICA 所長、所員



教官どうしの激しい稽古



警察学校の広報誌より

警察学校創立記念日には学校内でイベントが行われた。中でも近隣の現職よりえらばれた女子警察官のパレードには男子学生鈴なりになったの歓声を上げ、その日は特別な昼食も用意され厳しい訓練の寮生活の学生にとっては良い息抜きの時間となったことだろう。



売店で休息



パレードと見物の学生たち

合気道という珍しい武道ということで現地の新聞社のインタビューを受けたが「合気道とは相手にけがを負わせることなく相手を制する武道で、ガンジーの精神に共通するものがあり。日本からの指導者は孫とのんびりしていてもよい年齢であるが、高齢でもできる武道である」というような記事で紹介された。それを読んだマンシヨンの警備員が教えてほしいと言ってきたので彼の休憩時間に教えたこともあった。

市民から JICA を通して教えてほしいとの依頼があり、市民グループに教えたり、テコンドーと柔道と空手を教えている道場からも依頼が来たのでそこにも行ったり、この国でも格闘技は盛んで街のあちこちにキックボクシ

ング・テコンドー・柔道・空手・レスリングなどの教室があり子供から若者も汗を流していたが、指導者に頼んでいっしょにやらせてもらったりもした。飛び入りにも関わらず気持ちよく参加させてもらい会員と楽しめた。

日本文化の普及・啓蒙に日本大使館主催で日本祭をどこの国でも実施しているようで、エルサルバドルでも行われ盆踊りやアニメや折り紙・浮世絵などの展示や寿司やお稲荷さんなども販売され、私も舞台上で武道教官を相手に合気道の実演を行い、そのあとグラウンドで興味をもった青年たちに指導も行った。おおくの人が関心を持って訪れ盆踊りには炭坑節や東京音頭などに大勢参加してにぎやかだった。



帰国前には合気道本部の承認のもとに教官に昇段審査を実施して技能を習得した初段の国際認定書を手渡すことができ、市民の愛好者も育て少しは合気道の普及に役立てたかなと思う。多くの人の生活上の助けもあり、教官達とは飲みに行ったり市民クラブの会員たちとは簡単な日本食づくりをしたりクリスマスに招待されたり、楽しく交流でき良い思い出となった。



日本祭での演武



初段の免状を持つ教官



海苔巻き作り

松長佳正（まつなが よしまさ）氏

東京都の教員として勤務し、海外での教育に関心を持ち、インドマドラス（現チェンマイ）の日本語補習校の設立に携わる。退職後シニア海外ボランティアとしてラオススポーツ省にて青少年に合気道指導、さらにエルサルバドルで2008年から2010年まで国家警察学校で合気道を指導。現在は卓球、バトミントン、合気道を楽しむ傍ら、趣味でサククスと二胡を嗜む生活を送っている。